

三體千字文

千字文講義

天地玄黄。宇宙洪荒。

天の色は玄乃ち黒く、地の色は黄乃ちきいろなり、宇宙とは大空乃ち天地の間をいひ、洪荒とは共に大なるに広きをいふ、此の二句及び以下八句は天文を説きたるなり。

日月盈昃。星辰列张。

盈とは満つることにて昃とは傾くことなり、日は中して西にかたむき、月出づれば漸くにかくるをいふ、星辰は天の十二宮、宿とは二十八宿にして共に星の座なり、日月と共に列り懸るをいふ。

寒来暑往。秋收冬藏。

往は去ることなり、寒来れば暑さ去り、四時循環してかぎりなきをいふ、又秋に至れば春夏の候に種まき植ふるものを取り入れ収め、冬に至ればこれを蔵し納むるをいふ。

閏餘成歲。律呂調陽。

古の曆はすべて月を本として作れるなり、すなはち四年に一度閏月をおきて歳を定めしをいふ、又律呂とは音節に配して陰陽の氣を調へるをいふなり。

雲騰致雨。露結為霜。

地上の水気大空に立ちのぼり雲となり、冷氣にあへば雨となりて再び地上に降り来る、又氣候漸く冷かに結ばりて霜となるをいへるなり。

金生麗水。玉出崑崗。

古、中国にては、麗水と名づけし河中より多くの沙金の出しに、金は麗水より生ずるといひ、又崑崗と稱する山中より水晶、琥珀、瑪瑙などの宝玉を多く産せしより、玉は崑崗より出づといへるなり。

劍號巨闕。珠稱夜光。

古より世に知られたる、趙の国の名劍にて、巨闕と銘せしも、もとは地中より産出する鉄をきたへて作り、又古より、世に稀れなる宝として稱ふる、夜光の珠も、同じ地中より掘り出せるものなるをいふ。

果珍李柰。菜重芥薑。

果物は地に生ずる草木に実るものなるが、其の中に李と柰を最も珍とし、また野菜も種々多くあれども、中国にては、芥と薑とを第一として重んずるをいふ。

海鹹河淡。鱗潛羽翔。

水には海の水と河の水とあり、而して海の水は、しほからく、河の水は、あはくして塩気を含まず、又鱗乃ち魚類は水中を潜みて住み、羽乃ち鳥類は空中を横かとして飛びかけるをいふ。

龍師火帝。鳥官人皇。

中国の上古伏羲氏の時に竜馬図を負ふて出づ、因て伏羲氏を竜師といひ、燧人氏は民に火食を教へしより火帝と稱す、又鳥官は少昊氏の時に鳳凰出でしより官に名づけ、人皇とは天皇地皇人皇の人皇氏をいふなり。

始制文字。乃服衣裳。

上古には文字なく繩を結びて約束又はしるしにせし作しが、蒼頡といふ人鳥の足跡を見て始めて文字を制し、夫れより世は次第に進みて人皆な衣裳を作り之を服するに至れるをいふ。

推位讓國。有虞唐陶。

前句の如く世の進むにつれて仁義道德の教へを重んずる様になり、聖人出でて位を推し國を譲りて世を治め、帝舜有虞氏は禹を挙げて國を譲られたるをいふ。

弔民伐罪。周發殷湯。

弔とは恤れみ慰むることにして、暴虐なる君を誅伐して人民を塗炭の苦しみより救ひしことなり、周の武王發は、殷の紂王を伐ちて人民を助け安んぜしをいふ。

坐朝問道。垂拱平章。

聖賢なる人君は、朝廷に坐して天下國家を治むる道を臣下に問ひ諮りて政を行ひ給へるなり、されば衣を垂れ手を拱きて天下は自ら平らかに章らかに、治まれるをいふ。

愛育黎首。臣伏戎羌。

黎首とは蒼生といふに同じく万民のことなり、仁君世を知らしめしむるを愛し、其の徳を慕ひ來りて臣下となりて服従せるをいふ。

遐邇壹體。率賓歸王。

遐とは遠きをいひ邇とは近きをいふ、仁君の徳化は遠近の別なく一体に及びぬるを以て普天の下率土の賓乃ち國土のはてまでもすべて王化に帰伏せるをいふ。

鳴鳳在樹。白駒食場。

聖賢なる人君世を知しめざるより天下は大平の瑞兆として、鳳凰は來りて木にやどりて鳴き、白き駒は出でて牧場に食む、乃ち徳の禽獸にまでも及べるをいへるなり。

<p>容止若思。言辭安定。</p>	<p>篤初誠美。慎終宜令。</p>	<p>榮業所基。籍甚無竟。</p>	<p>學優登仕。攝職從政。</p>	<p>存以甘棠。去而益詠。</p>	<p>樂殊貴賤。禮別尊卑。</p>	<p>上和下睦。夫唱婦隨。</p>	<p>外受傳訓。入奉母儀。</p>	<p>諸姑伯叔。猶子比兒。</p>
<p>人はすがたかたちの端正にして優美なるを思ふ。さ れど思ふばかりではならぬ、其の思ふが如く端正優美 ならざるべからず、而して又ことばは安らかに静かに して、決して軽躁ならぬやうにせよといへるなり。</p>	<p>一事一業を為すには、必ず其の初めに篤く注意を加 ふれば、其の事業は誠に美しく成らん、又其の初めの は善良なるべしといへるなり。</p>	<p>榮業とは官途に就くことなり、以上述べたるが如く身 の行ひを正しくすれば名声籍甚とて、其の官位高官に上るの基 りなく伝へらるべしといへるなり。</p>	<p>學問が衆人に優れたる人は、仕乃ち官途に就くこと が容易でありて、遂には重要な職を執り、國政に従 ふの高位高官に昇り得らるべしといへるなり。</p>	<p>かくの如くなれば、この世に生存する間は、古、周 の召公が甘棠の下にして政を聽き、万民其の徳恵に浴し たるが如く、又死して後を詩経の甘棠篇の甘棠勿伐の 句の如く益その徳を謳歌せらるべきなり。</p>	<p>古より音楽には、天子、諸侯、士大夫、庶民と種々 区別あり、各その分によりて奏し又冠、婚、喪、祭 などの礼式も、それぞれ貴賤の別ありて、整然として 整へり。</p>	<p>天下平らかに國家よく治まり、人君は臣民を愛くし み、あはれみ、臣民は君主を尊み敬ひて上下和らぎ睦 び、又一家にありては、夫たる男子の命令に、婦たる 女子は能く服従して和合するをいふ。</p>	<p>傳とは守役のことにてなほ家庭教師の如きをいふ、 外に出ては導師の訓へを受けてよくこれを守り、又家 には範といふに同じ。</p>	<p>父の姉妹を姑「乃ち」をばといひ、父の兄弟を伯叔乃 ち「をち」といふ、すべての「をち」をばのことなり、 又猶子とは、兄弟の子をいふ、兄弟の子は猶ほ子の如 しといふより、すべての「をち」をいふ「めひ」をいふ、「をち」と 「めひ」は猶ほわが子の如くに愛くしめといふなり。</p>
<p>孔懷兄弟。同氣連枝。</p>	<p>交友投分。切磨箴規。</p>	<p>仁慈隱惻。造次弗離。</p>	<p>節義廉退。顛沛匪虧。</p>	<p>性靜情逸。心動神疲。</p>	<p>守眞志滿。逐物意移。</p>	<p>堅持雅操。好爵自縻。</p>	<p>都邑華夏。東西二京。</p>	<p>背邱面洛。浮渭據涇。</p>
<p>孔は、「はなはだ」にして別段にの意なり、兄弟は特 別に親しみ愛くしむべし、何となれば同じく父母の氣 分を受けたるものにして、たとへば多くの枝葉の一本の 幹より分かれたるが如く、一身同様なるべきをいふ。</p>	<p>常に交はる友は、その分に切つて意氣の相合ふもの を択ぶべきなり、而して相共に切つて意氣の相合ふもの を択ぶべきなり、文学技芸を研みて、互ひにその言行をい ましめただすべきをいふ。</p>	<p>人の難儀を見れば常に他を愛くしめあはれみで情深く、 いふはゆる同情にあつかるべし、又造次とは暫しの間を いふ。</p>	<p>退とは直くして利欲に惑はず人にへりくだり、又廉 にて意欲の堅くして正しきをいひ、顛沛とは物の倒る る間乃ちつかの間もこの心を虧くべからざるをいふ。</p>	<p>人の性質おちつきて静かなるは、その情ものびらか ず自づから安らかなるべく、又これに反して心定まら ず精神も疲るるをいふ。</p>	<p>人道の眞を明らめ身の本分を知らんには、意志もま ろらかに満足せらるべく、又事物の変遷を見てそれら 底事業を成し遂げ難きをいふ。</p>	<p>堅く正しきみさを保ち守り、この美徳を離れざる ときは、自然と世に知られ人に尊み敬はれて、求めず り集まり身にまとはるべきをいふ。</p>	<p>都邑とは、都会繁華の市をいふなれど、ここには単 に「みやこ」乃ち王城の在る所をいふ、華夏とは中国 人と長安の二つの都をいふ。</p>	<p>東の都は、北は北邱山を負ひ、南は洛川に臨む、故 に洛陽と稱し、又西の都長安は、渭水に面し涇川に攪り なる王城なり。</p>

<p>晋 <small>シン</small> 楚 <small>ソウ</small> 更 <small>カウ</small> 朝 <small>ハ</small> 趙 <small>テウ</small> 魏 <small>キ</small> 困 <small>コン</small> 横 <small>ワウ</small></p>	<p>假 <small>カ</small> 途 <small>ト</small> 滅 <small>メツ</small> 號 <small>クワク</small> 踐 <small>セン</small> 土 <small>ド</small> 會 <small>クワイ</small> 盟 <small>メイ</small></p>	<p>何 <small>カ</small> 遵 <small>ジン</small> 約 <small>ヤク</small> 法 <small>ハフ</small> 韓 <small>カン</small> 弊 <small>ハイ</small> 二 <small>ニ</small> 煩 <small>ハン</small> 刑 <small>ケイ</small></p>	<p>起 <small>キ</small> 翦 <small>セン</small> 頗 <small>ハ</small> 牧 <small>ボク</small> 用 <small>ヨウ</small> 軍 <small>グン</small> 最 <small>サイ</small> 精 <small>セイ</small></p>	<p>宣 <small>セン</small> 威 <small>キ</small> 沙 <small>サ</small> 漠 <small>バク</small> 馳 <small>チ</small> 驅 <small>ク</small> 丹 <small>タン</small> 青 <small>セイ</small></p>	<p>九 <small>キウ</small> 州 <small>シウ</small> 禹 <small>ウ</small> 跡 <small>セキ</small> 百 <small>ヒヤク</small> 郡 <small>グン</small> 秦 <small>シン</small> 并 <small>ハイ</small></p>	<p>嶽 <small>ガク</small> 宗 <small>ソウ</small> 恒 <small>コウ</small> 岱 <small>タイ</small> 禪 <small>ゼン</small> 主 <small>シュ</small> 云 <small>ウン</small> 亭 <small>テイ</small></p>	<p>鴈 <small>ガン</small> 門 <small>モン</small> 紫 <small>シ</small> 塞 <small>サイ</small> 雞 <small>ケイ</small> 田 <small>デン</small> 赤 <small>セキ</small> 城 <small>ヂヤウ</small></p>	<p>昆 <small>コン</small> 池 <small>チ</small> 碣 <small>ケツ</small> 石 <small>セキ</small> 鉅 <small>キョ</small> 野 <small>ヤ</small> 洞 <small>ドウ</small> 庭 <small>テイ</small></p>
<p>天下乱るるに及んで、人道漸く衰へ、天下は在れどもなきが如く、彼の晋と楚の兩國が、かはるがはるも、反つて秦の連横の計に苦しめられたり。秦に抗せし</p>	<p>晋の獻公の如きは虞の國を征すとて、道を號の國にかり、虞を討ちて帰るとき、遂に號を亡ぼしたり。周の子を敬ひ朝貢を怠らざらんことを盟ひしも、終に行はれざりしなり。</p>	<p>漢の高祖が天下を定めし時は、蕭何これ輔佐し、秦の苛法を除きて法を三章に約して國治まされり。布きしかば、その煩はしき為に政は廢れ國はつたれり。起は白起にして翦は王翳なり、共に秦の將軍たり、又頗は廉頗をいひ牧は李牧をいふ、この二人は趙の將軍なり、世にすぐれたる名將なりしなり。</p>	<p>さればこれらの將軍は、その威名は普く四海を離れし、武勳は天下に及ぶが如きのみならずその像を畫かり、その功績を記されて、善を後世に傳へられたるなり。九州とは中国古代の本土にして、冀、青、徐、魯、揚、兗、荆、豫、梁、雍の九州をいふ、禹はこの九州を巡り、始皇が天下を一統するに至り國を百郡に分たれたり。</p>	<p>嶽とは山なり、乃ち山は恒山と岱山とをたつとよ、いはゆる天下の名山となしてたつとび、又封禪の地と下しては、云々山と亭々山を主となしたり、これより以下八句は中国古代の地理形勢を示したるなり。</p>	<p>鴈門とは山の名にして、鳥も越えかねるといへる高き山なり、紫塞は万里の長城にして、その色よりして關門のありし所なり。又雞田とは古の城にして、赤城は周時代に</p>	<p>昆池とは、昆明と稱する有名なる池にして、碣石は著名なる山なり、又鉅野とは、鉅野と稱する所の広き原野にして、洞庭は楚の國と吳の國との間にある湖水の</p>	<p>名なる山なり、又鉅野とは、鉅野と稱する所の広き原野にして、洞庭は楚の國と吳の國との間にある湖水の</p>	
<p>曠 <small>クワウ</small> 遠 <small>エン</small> 繇 <small>メン</small> 邈 <small>バウ</small> 巖 <small>ガン</small> 岫 <small>シウ</small> 杳 <small>エウ</small> 冥 <small>メイ</small></p>	<p>治 <small>チ</small> 本 <small>ホン</small> 於 <small>ヨ</small> 農 <small>ノウ</small> 務 <small>ム</small> 茲 <small>シ</small> 稼 <small>カ</small> 穡 <small>シヨク</small></p>	<p>椒 <small>シユク</small> 載 <small>サイ</small> 南 <small>ナン</small> 畝 <small>ボ</small> 我 <small>ガ</small> 藝 <small>ゲイ</small> 黍 <small>シヨウ</small> 稷 <small>シヨク</small></p>	<p>稅 <small>ゼイ</small> 熟 <small>ジユク</small> 貢 <small>コウ</small> 新 <small>シン</small> 觀 <small>クワン</small> 賞 <small>シヤウ</small> 黜 <small>チュツ</small> 陟 <small>チヨク</small></p>	<p>孟 <small>マウ</small> 軻 <small>カト</small> 敦 <small>トン</small> 素 <small>ソ</small> 史 <small>シ</small> 魚 <small>ギョ</small> 秉 <small>ヘイ</small> 直 <small>チヨク</small></p>	<p>庶 <small>シヨ</small> 幾 <small>キ</small> 中 <small>チュウ</small> 庸 <small>ヨウ</small> 勞 <small>ロウ</small> 謙 <small>ケン</small> 謹 <small>キン</small> 勅 <small>チヨク</small></p>	<p>聆 <small>レイ</small> 音 <small>オン</small> 察 <small>サツ</small> 理 <small>リ</small> 鑑 <small>カン</small> 貌 <small>バウ</small> 辨 <small>ベン</small> 色 <small>シヨク</small></p>	<p>省 <small>セイ</small> 射 <small>シヨウ</small> 譏 <small>キ</small> 諷 <small>カウ</small> 誠 <small>ケイ</small> 寵 <small>チヨウ</small> 增 <small>ゾウ</small> 抗 <small>カウ</small> 極 <small>キョク</small></p>	
<p>以上の原野、湖水その他名所古蹟など、ひろく遠くはるかに連なり、又巖、岫、杳、冥、幽かに見ゆるが如く見えぬが如くなるをいふ。</p>	<p>天下を治むるの要素は農を以て本とす、乃ち農は國を立つる基礎なるが故に務めて稼穡の道を怠らざらんことを期するをいふ、けだし稼とは植ゑること、穡とは収むることなり。</p>	<p>椒は始めてなり、乃ちはじめて日あたりよき南向きの田畝に耕作して、我は「きび」や「あは」などの穀物を種まき植ゑて、農業を勉め励みて怠らざらんなり。</p>	<p>さてその穀物が実り熟したならば、その幾分を租税として納め、その新しきを貢として奉ること、これ農家の務めなり、されば上はその業を勧め励ますに賞を以てし、その勤怠によりて或は位をさづけ又はしりぞくるなり。</p>	<p>軻は世に名高き賢人孟子の名なり、孟軻乃ち孟子は史に魚、秉直とて少しもまがりたる心なき至つて直き人にてありしなり。</p>	<p>中とはかたよらぬこと、庸とは常にしてかはらぬことなり、この中庸ならんことを希ひ望みてこれを得、又勞謙とは、もつばらんにへりくだりゆづり、謙勅乃ちその言行をつつしみて、方正実直なるなり。</p>	<p>その音聲を聞きてそのすぢみちを察し知り、又その容貌を見て喜怒哀楽の情を弁別するなり、乃ち何事にも注意を怠らざして、是非善悪を見分けよとの意なり。</p>	<p>嘉猷とは、よきはかりごととなり、人道を守りてよき一家を経営するの計を子孫にのこし、又常に仁義忠孝の道を守り、勉めて身を立て家を興すべしとの教えなり、祗はつつしむこと植は立つことなり。</p>	

<p>クイジヨク 殆辱近耻。 リンカウ 林阜幸即。</p>	<p>リヨウソ 兩疏見機。 カイソ 解組誰逼。</p>	<p>サクキヨ 索二居閑處。 チンモク 沈黙寂寥。</p>	<p>キウコ 求古尋論。 サンリヨ 散慮遺遙。</p>	<p>キンソウ 欣奏累遣。 セキシヤク 感謝歡招。</p>	<p>キョカ 渠荷的歷。 エンモウ 園莽抽條。</p>	<p>ビハ 枇杷晚翠。 ゴトウ 梧桐早凋。</p>	<p>チンコン 陳根委翳。 ラクエウ 落葉飄編。</p>	<p>イウコン 遊鷗獨運。 リヨウマ 凌二摩絳霄。</p>
<p>君の寵愛いよまして高位厚祿を給はるときは、他のよかある兆しあらば、速かに身を退きて山林に隠遁せよといへるなり。</p>	<p>古、疎広、疎受といへる賢人あり、父の疎広は足るを知れば危ぶべからずといひ、子の疎受は功成り名遂ぐといひ、隠遁せり、かく機を見て冠の組紐を解き去らば、誰かまたこれを讒しこれを陥しれんとするものあらんといへるなり。</p>	<p>かくして住居を閑静なる所にもとめ、富貴榮華にあらずして、世との交はりを絶ち事にたづさはらなしく世を送らるなり。生ずることなく、のどかに楽しむを得らるべきなり。</p>	<p>而して古人の書を読み、古人の道を得てそれをあげつらひ、その真理を究めんには、世の煩さき交はりもなかり、随つて心を勞はすに及ばず、天真爛漫の楽しみを得らるべきなり。</p>	<p>かかれればは常にたのしくして欣喜の情は内心に動れば世故のわづらひはいつしか皆去りつくすべし、たれば悲しき事のみ招かずとも自づから来るべきなり。</p>	<p>渠とは講のことなり、荷は蓮なり、みぞの中に咲きたる蓮も、的歴と鮮かに美はしく、園に生ずる莽乃ち雑草も、枝をぬきんでたるときは、青々と清らかなり、雑草の泥中の花も園内の雑草も強ち捨つべからざるをいふ。</p>	<p>枇杷は、さまで見どころなきものなれども、その葉は冬に至るも色うつろはずして緑なり、又あをざりはつるものなり。葉なれども、他の木よりは早く凋み落つるものなり。</p>	<p>古き根はすたれしほみ、おち葉は風にひるがへる。以上六句は、人世の栄枯盛衰一様ならず、富貴も羨むべからず、貧賤も悔るべからざるを諷諭せるものなり。</p>	<p>鷗とは、子にいふところの空中をかけり舞ふ大なる鳥の名なり、この遊鷗は他の鳥類と離れて独り大空を飛び廻り、降着乃ち日の暮方の赤き空を凌ぎて高く飛ぶかけるさまをいふ。</p>
<p>ダンク 耽讀翫市。 グウモク 寓目囊箱。</p>	<p>イウシヤウ 易輜攸畏。 シヨクジ 屬耳垣牆。</p>	<p>グゼン 具膳餐飯。 テキコウ 適口充腸。</p>	<p>ハウヨ 飽飮二烹宰。 キエン 飢厭二糟糠。</p>	<p>シンセキ 親戚故舊。 ラウセウ 老少異糧。</p>	<p>セフゴ 妾御二績紡。 ジケン 侍巾二帷房。</p>	<p>グワン 纨扇圓潔。 ギンシヤウ 銀燭焯煌。</p>	<p>チユウミン 晝眠夕寐。 ランジュン 藍筍象床。</p>	<p>グンカ 絃歌酒讌。 セツハイ 接杯舉觴。</p>
<p>出では、古、王氏が市に出で、書肆の店頭にて読書にふけりし如くし、入りては、眼を書籍を納めたるみくろや箱に寄せて、ひたすらに文学を研究して他を顧みず、けだし学に志すものはかやうに励むべしといへるなり。</p>	<p>易輜とは、軽率なることにて、すべて事に臨みて深思熟考に目ありといへば、人無きところにて、壁に耳あきかき、目ありといへば、人無きところにて、壁に耳あきかき、目ありといへるなり。</p>	<p>飲食するには必ず膳をそなへ、礼儀たたくすべし、又食物は美味を扱むやうな贅沢を為すべからず、口にかなひ膳に満ちて、飢渴を凌ぎ得れば足れりと思ふべきなり。</p>	<p>我人ともに充分飲食したるときは、たとひ美味珍産たりとも飽きて食ふことを欲せず、又これに反して飢えて空腹なるをいふ。糟糠の如き粗食にてもいとはず喜びて食するをいふ。</p>	<p>親族家族ならびに故き知合ひは、互ひに往来音信しその交情を温め親密なるべく、又老人と少年とはその食事の異にすべきものなり、これは貴賤老若若その分を守るべきをいへるなり。</p>	<p>妾とは、「そばめ」なり、御とは取扱ふこととなり、妾を取扱ふべく、又侍乃ちそばめをつとむべく、房（へや）などを掃除するが役目なり。</p>	<p>纨扇とは絹にて張りし扇子にして、その形は丸くし又白かねの燭台に火を点すれば、室内は光りまばゆくかがやき、燭りて昼の如くなり。</p>	<p>昼ねむくなれば眠り、夜ねむければ寝、しかも眠り或は寝ねるれば、青竹にて作れる寝台或は象牙をも飾りたる寝床を用ひて、安らかに眠り又寝ることなり。</p>	<p>絃とは琴などの糸を弾きて囀らす楽器をいふ、時とては、楽を奏し詩歌を吟唱して酒宴を催し、互ひに杯をまじへ又觴をあげて酌み交はし遊び興ずるをいふなり。</p>

<p>矯手頓足。悦豫且康。</p>	<p>嫡後嗣續。祭祀蒸嘗。</p>	<p>稽顙再拜。悚懼恐惶。</p>	<p>牋牒簡要。顧答審詳。</p>	<p>骸垢想浴。執熱願涼。</p>	<p>驢驘憤特。駭躍超驤。</p>	<p>誅斬賊盜。捕獲叛亡。</p>	<p>布射遠丸。嵇琴阮嘯。</p>	<p>恬筆倫紙。鈞巧任鈞。</p>
<p>酒宴遊興の間には、或は手をさげたり足をあげたりなどして舞ひ踊りて歡楽を為す、されば色よろこび心にして一家団楽の樂しみを尽すのさまをのべしなり。</p>	<p>嫡とは、正妻の長子にして惣領息子なり、父の後を嗣ぎて一家を相続するものなり、されば四時に怠らず祖、先、秋の祭典をつとむべし、その祭典は、春は杓、夏は籩、冬を蒸といふなり。</p>	<p>稽顙とは、頭を地につくことなり、乃ち祭典の時み、を頭を地につけて再び拝をなし、をそれをそれもてこれを營むべきものなるをいふ。</p>	<p>牋牒は共に紙のことなり、されどここにては手紙をいふ、すべし手紙を認むるには、くだけしからぬやう、手短かにその要を摘みて書くべし、さりながら訪ひおとづれの文は委しくつまびらかに認むべきなり。</p>	<p>骸とは身体のことなり、身体垢つけば湯あみして洗ひ清めんことを思ひ、又あつきにおはるときには涼氣を納れんことを願ふ、これ人情の自然にして免れがたき所なり。</p>	<p>驢は「うさぎうま」驘は小さき馬、憤は「こうし」特は家の児なり、又駭は（おどろき）、躍は（おどる）家は、かくして遊び戯れつつあるをいふ。</p>	<p>誅は人を害ひ、物を奪ひ盗みなどする兇悪なるものを斬りころし、又君に背ける叛人或是悪事を為せる逃亡人などは、悉く捕へてそれぞれ刑罰に行ふべきなり。</p>	<p>布は呂布といひて弓射ることに長けたる人、道は宣道とて手玉を取るに妙を得たる人、又嵇叔夜といひて琴を弾ずるに巧みなる人、阮は阮嗣宗とて頌る詩吟を能くせり。</p>	<p>又案の蒙恬は、創めて筆を作り、漢の蔡倫は創めて紙を作り、馬鈞といへる人は巧みなる指南車をつくり、任公といひし人は魚を釣るに妙を得たり、以上は何れも天下に名高き人々なり。</p>
<p>釋紛利俗。並皆佳妙。</p>	<p>毛施淑姿。工嘏妍美。</p>	<p>年矢每催。曦暉朗曜。</p>	<p>璇璣懸斡。晦魄環照。</p>	<p>指薪脩祜。永綏吉劬。</p>	<p>矩步引領。俯仰廊廟。</p>	<p>束帶矜莊。徘徊瞻眺。</p>	<p>孤陋寡聞。愚蒙等詘。</p>	<p>謂語助者。焉哉乎也。</p>
<p>紛々と乱れたる事物を理め解きて、世俗に種々の利益を与ふることその身を委ねたるこれらの人々は、並びに皆その芸術に達して佳妙の境に入りたるなり。</p>	<p>毛とは呉の毛氍のこと、施とは越の西施がことなり、ことに西施の曠とて、眉を清らかにする美人にして、巧みに艶なる、又毛氍が笑を含みたる妍やかさ、共に見るものをして恍惚たらしめしなり。</p>	<p>年矢とは、年月のことにて、光陰は矢の如く、時々刻々にうつり往きてまた還らざれど日乃ち太陽は照りかがやき、月は光り朗らかに、万物その恵みを受くることは変りなきなり。</p>	<p>璇璣とは、渾天機のことにして、天文を窺ひ見る器械なり、懸斡とは、高きにかかりめぐること、又晦魄は月の体なり、すなはち日月が常に運行循環して天地間を照らすをいふなり。</p>	<p>指薪とは、薪を指しくれば燃えて尽くすることなきが如く、我人も行ひを正しむ道にそむかずして勉め励まば世を終るまで安寧しむべく、幸福を得て永く安らかなれば、心も楽しく喜びて務めに服し得べきなり。</p>	<p>道を行くには、一步も法に違はざるべく、領を上げて正しく歩むべし、廊廟とは、宮殿のことにて、かかると所にては出入に俯仰拜揖し、謹みて礼儀を守るべきものなるをいふ。</p>	<p>束帯とは、衣冠束帯の略にして、官位に相応したる服装を着けたるときは、その容儀をかぎり、坐り進退威儀を保つべきなり、又徘徊とは、ゆきつもとどりつすること、瞻眺とは、ながめ見ることなり。</p>	<p>孤陋とは、才智なく識量の狭きをいひ、寡聞とは、見聞のすくなきをいふ、己れはかかる器物なれば、無智文盲の輩と同じくそれし笑はれんは期する所なりと、著者自身を謙遜せし句なり。</p>	<p>語助とは、すべて文章には「たすけことば」といふものあり、その数少なからざるも、中について常に最も多く用ひられるものは、焉、哉、乎、也の四字なり。</p>